

報告日 令和8年1月9日
報告回次 1回目

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	富山県総合教育センター			代表者名	所長 辻本努
担当者部署(属性)	情シス担当	担当者部署名	科学情報部	連絡先電話番号	0764446165
担当者役職	科学情報部長	担当者氏名	東海直樹	連絡先E-mail	
住所	930-0866 富山県富山市高田525				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名	連絡先部署
担当者氏名	連絡先電話番号

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（単独）	事業名	デジタル学習基盤構築検討
概要	富山市教育委員会が運用を開始したような、新しいデジタル学習基盤の考え方を知り、富山県教育委員会におけるデジタル学習基盤のあり方を考えたい。		
支援を求める分野	人材（DX推進のための機運の醸成） 人材（DXに関する知識習得・研修・育成） 教育情報化／情報教育		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和8年1月7日	講演(実地)	9時30分	11時30分	活動時間（分）
					120

2-2. 派遣場所	会場名	富山県総合教育センター	最寄駅	トヨタモビリティ富山Gスクエア五福前
	所在地	富山県富山市高田525 富山県総合教育センター	最寄駅からの交通手段	徒歩10分

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	谷 正友
評価	大変良い
上記評価の理由 (どのようなところがよかったです等詳細に)	1. 民間・行政双方の知見に基づく圧倒的な説得力：講師が民間企業で14年、奈良市教育委員会で9年という、ITの専門性と教育行政の実務の両方を経験されているため、話に非常に説得力があった。特に教育委員会事務局の立場から教育現場のICT化に尽力された実体験は、同様の課題を抱える者にとって大きな指針となった。 2. 教育DXの本質の提示：教育DXを単なるツールの導入ではなく、「先生方の荷物の棚卸し」として捉える視点が非常に有益であった。従来の「職員室と教室を分ける」というネットワーク分離から、「認証基盤を一つにしどこでも同じように仕事ができるシンプルさ」を追求する方向性は、教職員の働きやすさに直結する重要な考え方であるとの共通認識が得られた。 3. 共生と持続可能性の視点：ICTの活用を、単なる技術論に留めず、多様性を認め合い誰もが自分らしくいられる持続可能な環境づくりとして語られた点に深く感銘を受けた。誰一人取り残さないためのICTという考え方は、教育の本質に通じるものであった。 4. 次期学習指導要領を見据えた明確な展望：令和11年度から始まる次期学習指導要領では、1人1台端末が「大前提」となるという指摘は、今まさに私たちが取り組むべきスピード感を再認識させるものであった。自先のトラブルを恐れすぎず、教員の目の届くところで児童生徒に正しく使わせる指導の重要性についても、明確な指針を得ることができた。
アドバイザーへの要望事項	「旧システムと新システムの並行運用（足し算）」によるコストと負担の増大を避けるため、どのように現場を説得し、一気に切り替える決断を促すべきか、具体的な合意形成の事例等をアドバイスいただきたい。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】		合計人数	40人
	属性	自治体職員		
	人数		40	

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点 (具体的にご記入下さい)	・職員室と教室でネットワークや端末が分離されており、業務効率が著しく低下している。 ・ICTの導入が教職員にとって「新たな仕事の追加」となり、多忙化の要因となっている。 ・複雑なセキュリティルールや操作体系が、現場のICT活用を阻害している。 ・教育委員会内に、インフラと教育課程の両輪を回せる専門人材が不足している
支援により目指す成果 (具体的にご記入下さい)	・認証基盤の一本化により、場所を問わずシンプルに仕事ができる環境を実現する。 ・校務のデジタル化を通じて「荷物の棚卸し」を行い、教職員の負担を軽減する。 ・1人1台端末が「大前提」となる次期学習指導要領に、円滑に移行できる体制を整える。 ・子供たちの情報活用能力を向上させ、個別最適な学びと協働的な学びを両立させる

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	<ul style="list-style-type: none"> 最新の「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」の改定ポイントの解説。 奈良市や富山市におけるネットワーク統合とクラウド活用の具体的な構成事例の提示。 オンプレミスからSaaS（クラウド）へ移行する際のコスト面や運用上のメリットに関する助言。 教職員の働き方改革に直結する、Google Workspace等の具体的な活用手法の紹介。
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	<ul style="list-style-type: none"> ネットワーク統合が「使い勝手」と「安全性」を両立させる鍵であるとの認識が共有された。 クラウド移行時のコスト増を避けるため、旧システムとの並行運用を最小限にする方針が明確になった。 技術的な制御（認証）と、教職員・児童への適切な指導を組み合わせた安全管理の考え方が整理された。
具体的な成果物	<p>最も当てはまるものをリストより選択下さい。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑦その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育DX推進の土台となるネットワーク構成および認証基盤のモデルを知ることができた。 働き方改革と学びの質向上を両立させるための先進校の実践事例資料を得ることができた。
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	<ul style="list-style-type: none"> 地域や学校間におけるICT活用の格差を完全に解消するための、継続的な指導体制の構築。 自治体独自の事務手続き（Excelベースの報告等）と、新しいクラウド環境との完全な親和性の確保。 全校一斉のインフラ切り替えに伴う、具体的な予算確保のスケジュールと業者選定。 ICT操作に不安を感じる教職員や、デジタル化に戸惑う保護者への具体的な個別サポート計画。
アンケートの内容と分析結果	<p>講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。（EXCELやPDFでの分析結果を添付されても構構です。） アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。</p> <p>自由記述より 満足度：非常に高い。講師のキャリアに裏打ちされた話が受講者の信頼を得ている。 学習効果：組織内での立ち振る舞いや、資料の読み解き方など、実務レベルの気づきが多い。 今後の展望：行政の動きに追従するだけでなく、主体的に関与しようとするポジティブな変化が見られた。</p>
4-3. 今後の計画	<p>最も当てはまるものをリストより選択下さい <input checked="" type="checkbox"/> ④予算以外で、今後取組む事項がある</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和11年度の次期学習指導要領実施に向け、1人1台端末を「大前提」とした教育環境の整備を加速する。 現在分離されている校内ネットワークと認証基盤を、クラウドを基点としたシンプルな構成へ一本化する。 オンプレミス環境からSaaS（クラウドサービス）へ移行し、管理コストの削減と運用の効率化を図る。 研修を通じて、一部の得意な教員だけでなく全ての教員が日常的にICTを使いこなせる指導体制を構築する。
4-4. 事業の最終的な目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> 教員が複雑なルールを意識せず「いつでも・どこでも・安全に」本来の業務に集中できる環境を実現する。 ICTによる校務の効率化（荷物の棚卸し）により、教員が児童生徒一人ひとりと向き合う時間を最大化させる。 地域や学校間の格差を解消し全ての児童生徒が個別最適で協働的な学びを等しく享受できる姿を目指す。

5. 報告書についての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載可 ○掲載可

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good_practices/past_year_all_houkoku/

なお「その他」を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意下さい

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG等）」を数枚程度貼り付けて下さい。

